

芳川研究員の論文が日本地質学会国際誌 **Island Arc** の  
**top 10% most downloaded papers (2018-2019 年)** に選出されました。

「Island Arc」は伝統のある日本地質学会が発行する国際誌です。このほど、本拠点研究員である芳川雅子氏らにより同誌に発表された下記の論文が、同誌の”top 10% most downloaded papers”に選出されました。

**Yoshikawa, Masako, Kiyooki Niida, and David H. Green. "Dunite channels within a harzburgite layer from the Horoman peridotite complex, Japan: Possible pathway for magmas." *Island Arc* 28.1 (2019): e12279.**

本研究では、幌満かんらん岩体の層構造にやや斜交し存在する、2つのダナイトチャンネルの岩石記載とその中に含まれる鉱物の化学組成・Sr-Nd 同位体分析を行いました。その結果、ダナイトチャンネル中のかんらん石の粒径サイズが多岐にわたること（最大 1.6 m ものかんらん石巨晶を含む）、それぞれのチャンネルはそれぞれ異なるメルトが壁岩のハルツバージャイトを通過する際に置換して生じたこと、ダナイトが固化したのは約 50Ma 前で沈み込んだ海洋リソスフェア由来のメルトの影響を受けていること、を示しました。これによって、ダナイトチャンネルが形成された場とタイミングに重要な知見を与えました。

詳しくは下記をご覧ください。

<https://onlinelibrary.wiley.com/doi/full/10.1111/iar.12279>

